



令和 2 年度

新潟県立新発田病院附属看護専門学校

第 62 期生 卒業証書授与式を挙行いたしました。

令和 3 年 3 月 3 日（水）、学校講堂にて「令和 2 年度(第 62 期生)卒業証書授与式」が挙行されました。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、規模を縮小し、感染防御を徹底した上で執り行いました。

本日まで、ご指導いただきました病院関係者をはじめ多くの皆様、ご家族に支えられて、卒業生 35 名が本校を巣立ちました。

卒業式に際し、皆様より、心のこもったご祝電や美しいお花をいただきましたことに、改めまして厚く御礼申し上げます。

以下に学校長式辞、新潟県病院事業管理者告辞を掲載します。



令和二年度

新潟県立新発田病院附属看護専門学校

卒業証書授与式 学校長式辞

木々に芽吹きの様子が見られるようになった今日の佳き日に 令和二年度新潟県立新発田病院附属看護専門学校六十二期生 三十五名の卒業証書授与式が挙行できましたことを 心から嬉しく思います。皆さん 卒業おめでとうございます。そして ご臨席いただきました ご家族様はじめ三年間 支えてくださった皆様に 心からお祝いを申し上げます。

臨地実習を中心とするこの一年は 世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。多くの看護学校が リモート実習などに切り替える中当校は 新しい日常を実践しながら 感染者を出すことなく 臨地実習を続けることができました。学生及び家族の皆様は勿論 実習指導者や教官など 多くの方々の不断の努力が実り実現できたものと 心から感謝申し上げます。更に先月の国家試験は 雪のために二時間遅れたにも関わらず 全員が実力を十二分に発揮してくれました。私は皆さ

んの努力を大いに讃えたいと思います

新型コロナウイルス感染症のために 出席をお控え頂きました 新潟県病院局長、新発田市長、新発田北蒲原医師会長、新潟県看護協会会長、同窓会長、新発田地域振興局健康福祉部長、実習指導者 はじめ多くの関係者の方々には これまでのご支援と今回のご配慮を含め 厚く感謝申しあげます。

さて 本校は新発田に移って 昨年九月で六十年になりました。世界に誇れる日本の国民皆保険制度と同じく 還暦を迎えました。この長い伝統を六十二期生の皆さんは 卒業と共に 引き継ぎ新潟県立新発田病院附属看護専門学校の同窓生となりました。入学した頃に比べて 自信に満ちあふれた顔を拝見し 私たち教職員は 安心するとともに誇らしく思っています。

三年前の四月九日の入学式で私が何をお話したか 覚えていらっしゃいますか。最初にプロ野球の大谷翔平選手が打者と投手の二刀流を引っ提げて 大リーグに挑戦するというニュースを紹介しました。新生活に向かう皆さんに重ねて 見ておりました。今年の大谷選手は けがに見舞われても挫折せず 手術後のリハビリに耐えて 逆境からの

再スタートを切ろうとしています。皆さんも 頑張る彼を見習って 前に向かって精進してください。

もう一つの話は 医療界は転換点に差し掛かっているというお話と 一年目の離職率が低い県立病院の新人育成システムを紹介しながら 県内就職を勧めました。

新潟県は首都圏に比べて物価は安く 奥ゆかしく優しい県民性など 安心して腕を磨く環境が整っていると思います。一方で新潟県は医師不足のため 新型コロナウイルス感染症による医療ひっ迫が心配されました。ひっ迫を避けるには 情報の共有 効率的な仕事配分など 協力的な姿勢や基本に忠実な医療実践が不可欠です。その点では県民性によるタイトな連携によって 医療機能を保ち続けられたと実感しています。これは県内医療機関同士のチーム医療ともいえるものです。

その他に医師不足対策として 国が進めるタスクシェア・タスクシフトがあります。医師法十七条には医師以外医療行為ができないと書かれています。しかし 血管確保などは 医師からタスクシフトされ 今では看護師の基本技術になっています。今後は臨床検査技師や診療放射線技師も血管確保

ができるようにと医療法改正が議論されています。

十年経てば常識が変わるほど 変化は医療の常
と申ってください。時代と共に制度が変わっても対
応できるように 専門職として 新しい知識を一
生学び取る覚悟を持ってください。と言うことは
今は劣っている 不足していると感じる部分があ
っても 日々の努力によって 差を詰め 追いつ
き 逆転することも可能であるということです。

そこで 自分には可能性があると思えることを
忘れないでください。更に 変化するきっかけは
いつでもどこにでもあると思ってください。

卒業生の皆さんにとってこの三年間は 充実し
ていましたか。それとも長く辛い三年間でしたか。

あなたを支えたのは 家族ですか 友人ですか
先生ですか。義務教育や高校時代に比べて 多くの
人に支えられたと思いませんか。多くのお世話にな
った方への感謝も忘れてはいけません。

医学・医療は今後も更に高度に複雑になります。
医療の結果は不確実であり理不尽なことが多々あ
ります。医療者は求められる知識が多く多忙で 患
者さんは現実を受け止めきれず 現場では余裕の
ない状況が日常的です。消化しきれない現実の中で

患者さんは看護の心に癒しを求めて来ます。皆さんは これまでに身に付けた知識や技術で患者さんとの距離を縮めてください。患者さんの戸惑う心を感じながら 患者さんに寄り添ってください。患者さんとの交流の中で 気付きを与えることが出来れば最高です。次善の策としては 一緒に考えることです。立派に成長した皆さんならできるはずと私は思っています。

この春から 学んだ知識を 実践で役立つ技能に変えることになります。現場では 先輩や同僚の技能の観察を怠りなく 現場で培われたコツや工夫を残らず吸収してください。それに加えて この三年間で 身についた学習習慣を維持し 向上心を持って自己研鑽に励み 自己実現してほしいと思います。

皆さんは看護師資格を取ることが最終目標ではなく、人として成長し、社会に貢献するスタートラインに立ったと考えてください。また 臨床現場において 看護の一番良い先生は 患者さんであることを忘れないでください。患者さんを道標にしながら 安心安全を届け 寄り添う過程で 看護の実感を学んでください。

保健師や助産師資格を目指し進学する方もいます。健康管理に必要な公衆衛生や人口減対策に貢献できる周産母子の看護を学び、タスクシフトを超えて自立した立場を目指しても良いと思います。

それぞれ道は異なっても、ここで一緒に学んだことを忘れず、新しい生活環境に入っても、いつまでも良き仲間であってください。これからは日進月歩の医療を学び続け、各々が健康に恵まれ、そしてプロと呼ばれるに相応しい看護師になってくれることを願っています。そして、皆さんが自分の人生を振り返って見た時に「私は天職に巡り合った」と感じてくれることを願っています。

医療者たるもの、自分の健康管理は最も大切です。皆さんの心身の健康が常に保たれ、未来が明るく充実したものであることを信じ、関係各位を含め皆様のご多幸を祈念し、卒業式の式辞といたします。

令和三年三月三日

新潟県立新発田病院付属看護専門学校

学校長

塚田芳久

告辞

県立新癸田病院附属看護専門学校の第六十二回卒業証書授与式にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、ここに、めでたく卒業証書を手にされた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご家族の皆様方におかれましても、お喜びのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、「豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を持った看護職の実践者を養成する」という本校の教育理念の下に、看護師として求められる知識・技術の研鑽を積み、同じ道を志す友人と励まし合いながら最も大切な「看護の心」を学んだことと思えます。

学びの過程では、ご家族や先輩方、教員や臨床指導者などの多くの方々に支えられ、幾多の困難を乗り越え、人間としても成長できたことと思えます。この尊い経験は、大きな誇りであり、本日、ここに卒業の日を迎えられた胸中には感慨深いものがあるものと

考えております。

昨年初頭より、世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症は多くの人命を奪い社会経済活動に甚大な影響を与えています。世間では医療に対する理解が側面的ではありますが広がっています。少なからず差別発言がある一方で、感謝の気持ちも多く表現されています。世界中で医療に携わる人々へ応援メッセージが発信され、新潟でもブルーライトの点灯が行われるなど、感染の危険性がある中で医療従事者がどのような思いで臨床に向かっているかを知って貰えたような気がします。

看護学校においても緊急事態宣言を受けて休校や臨地実習の中止、オンライン授業と学内実習へ変更が余儀なくされました。皆さんは様々な焦りや不安を抱えていることと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症の経験は、人々の健康を暮らすの大切さを改めて認識する機会となり、これまで普通に出来ていたことが出来なくなる体験は、日常に対する感謝を気づかせてくれました。看護職は3密のなかでも「密接」が避けられない役割を担っています。

す。どんな状況においても看護に携わる者の基本姿勢は「患者の一番近くにいる」職業として患者や家族に寄り添う看護であります。皆さんは、本校において学業を修めるのみならず、豊かな人間性を育み、自分の考えを持った行動力のある医療人としての資質を高めてこられました。本校で培ってきた経験を糧に、これからも今と変わらないうまっすぐな心で、誠実に患者と向き合い、温かい人間味のある看護師として成長していかれますよう心より期待しております。

最後になりますが、今日までご指導にあたられた先生方、関係機関・関係施設の方々にご敬意を表しますとともに、卒業生の皆さんのご健康とご多幸、そして輝かしい未来を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年3月3日

新潟県病院事業管理者 藤山 育郎